

豊橋技術科学大学長 殿

平成 24 年 8 月 16 日

審査委員長 大貝 彰



論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

学位申請者	Indrawan Permana	学籍番号	第 089401 号
申請学位	博士 (工学)	専攻名	環境・生命工学専攻
論文題目	Analysis of the Illegal Settlements in Palangkaraya City, Indonesia - Urban Economics Studies - (インドネシア・パランカラヤ市における不法居住の分析・都市経済学的研究)		
公開審査会の日	平成 24 年 8 月 3 日		
論文審査の期間	平成24年7月12日～平成24年8月16日	論文審査の結果	合格
最終試験の日	平成 24 年 8 月 3 日	最終試験の結果	合格

論文内容の要旨

本研究はインドネシア・パランカラヤ市を事例にとり、パランカラヤ市内洪水氾濫地域での不法居住を理論的・実証的に考察したものである。本研究は5章から構成され、第1章では本研究が対象とする主たる問題、研究の意義、研究のオリジナリティなどを述べている。第2章では発展途上国における都市問題、特にインドネシアにおける都市開発の問題点を分析している。さらにパランカラヤ市の特徴的な問題点である、氾濫想定地域における不法居住と環境問題の関係について述べている。第3章では家計所得を外生的とし、水害のリスクを効用関数に組み込んだ部分均衡モデル分析を述べている。そして氾濫想定地域における不法居住民の存在について理論的考察を行っている。第4章では企業生産や家計所得を内生化した一般均衡モデル分析を述べている。ここでも水害リスクを取り入れ、都市周辺農村の開発が、どの程度不法居住を減らせるのかをシミュレーション分析している。第5章では以上の分析結果をまとめるとともに、パランカラヤ市の不法居住をどのように減らしていけば良いのかという政策的考察を述べている。

審査結果の要旨




パランカラヤ市の不法居住問題はインドネシアの一地方都市の問題に留まらず、東南アジア各国に見られる共通的な大きな課題である。本研究はそうした問題を都市経済モデルによって厳密に定式化し、かつ数値シミュレーションによって政策的提言にまで到達するという、国際的にも数少ない研究である。

本研究で得られた新たな知見としては、洪水氾濫地域が不法居住によって占拠されているという実態を、効用関数に水害リスクを導入することにより、低所得者の付け値地代が高所得者のそれよりも高くなるという、従来の命題とは逆の結論を得ていることである。

一般均衡分析についても地代の付け方が伝統的都市経済学とは逆になるという結論を得ている。その上で都市部での不法居住を減らす方策として、周辺農村の生活環境改善策を提言している。この政策により、洪水氾濫地域での人口密度を76%減らせる可能性を示唆している。

これらの結果は審査付き論文2編、国際会議発表論文として5編発表され、国際的にも高い評価を得ている。以上により、本論文は博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

大貝 彰  印      宮田 譲  印      渋澤博幸  印

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。